

配布数8 回収7

討議年月日:令和 7年 2月 27日

公表:令和 7年 3月31日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	7		・運動あそびなど十分なスペースを確保するため小グループに分かれて実施している	・指導訓練室(各クラス)は基準上では2.47㎡必要など、実質一人あたり3.6~4.2㎡となっており基準は十分満たしている。また、遊戯室は一人あたり1.65㎡必要基準に対し、実質2.5㎡×定員20名=50㎡の広さを確保している
	2	職員の配置数は適切であるか	7		・基準で定められている配置数は満たしており、加配スタッフも含めて対応している。 ・適切ではあるが、個別対応の多さや活動によっては少ないと感じることもある。	・職員の配置数については、こどもの状態・出席状況や活動内容により適切に対応できるようにしていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	7		・集団での設定活動を行う部屋と自由遊びの部屋を分け、本人に分かりやすくしている。 ・給食の時は机の設定を変え、食事に集中できる環境設定となるよう工夫している。 ・建物内の床は全面フラットだが、子ども用玄関は階段になっており、スロープが無い。来客用の正面玄関にはスロープあり。	・バギーが必要な児に関しては正面玄関のスロープを使っている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	7		・療育後には必ず専用の液剤を使って手の触れる所・床・窓や鏡・トイレ内・使用した物品等の消毒をして清潔感を保てるようにしている。また心地よい環境が保てるように毎日清掃や片付け後の点検も行っている。	・毎日の清掃、整理整頓を継続し、子どもの状況に応じた環境になっているか定期的に見直ししていく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	7		・月に1回の会議内で振り返りを行い、目標設定の見直しを行っている。	・日々の振り返りが業務改善につながるため職員間の振り返りが滞らないよう継続する。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	7		・毎年実施している。できる限り意向に沿って改善できるよう努めている。 ・評価を受ける時期が遅く、改善目標を設定しても次年度から取り組む課題となる事が多い。	・保護者評価を受ける時期を早め(10月頃)に設定し、年度内での見直し・改善ができるようにする。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	7		・毎年必ず法人のホームページで公開している。	・今後、評価を2学期に行うようにする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	1	5	・公的機関による第三者評価は未受診	・今年度は事業所内の評価委員会を受け、8年度は外部評価委員会を設け、将来的に第三者機関の評価を受ける準備をしている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	7		・岡山県強度行動障害支援者養成研修、瀬戸内市内の支援者向け研修会(TEACCHプログラム連続講座)、職場内にて障害理解を深める基礎研修を実施するなど研修機会の確保に努めている	・外部研修以外に、事業所内での年間の研修計画を立て実行していく。(年5~6回程度)
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	7		・保護者からの子どもの状況聞き取り、サポートブック等による基礎情報の記入、体験利用や園・事業所への訪問による行動観察、発達検査や診断書の情報等から課題やニーズを分析し、個別支援計画を作成している。	・今後、発達検査結果の見方、行動観察の取り方等についても研修を行っていく。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
適切な支援の提供	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	7		・太田ステージを導入しているが、適応行動の状況を適切に把握する為にはその他のアセスメントツールも使用していく必要がある	・太田ステージの言語認知面でのアセスメントの他に、社会生活での発達課題、子どもに応じた支援・活動目標を得るためにSM社会生活能力検査でのアセスメントも取り入れていく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	7		・本人支援は5領域すべてを含んだ目標設定となるようにしている。 ・家族支援、移行支援も適切に設定しているが、地域支援の項目も設定していく必要がある。	・行政や医療など関係機関との連携について具体的な目標を地域支援に盛り込んでいく。(子どもが地域の中で生活しやすくなるために、今後子どもが関わる園や学校訪問により情報共有や保育所等訪問支援の利用等)
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	7		・支援計画に沿った支援となるよう随時意識して支援の見直しを行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	7		・「リズム、体育、微細、生活、認知」の設定活動をそれぞれ主担当を決めて立案し、共有・意見交換した上で活動プログラム(月案)を設定している。(毎日通園) ・「集団の設定活動、あそびの内容、個別課題の内容」を主担当が立案し、その他職員と共有・意見交換した上で設定している(並行通園)	・今後5領域の支援プログラムに沿い、支援・活動をチームで検討、立案していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	7		・歴代の月案を参考にしたり季節にちなんだ行事や活動を取り入れたりしながら固定化しないよう努めているが、「今までやった事のあること」に頼りがちな面もある。 ・土曜日の親子通園では毎月異なるプログラムも盛り込みながら活動を充実させることができた。	・こどもの状況に応じた活動内容を再検討し、活動プログラムを設定していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成しているか	7		・個別支援計画の中に個別で取り組む事と集団で取り組むことをどちらも盛り込んでいる。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	7		・打ち合わせは必ずしているが、1日を通した細かな活動場面における役割分担までは確認できておらず、その場で考えることも多い ・支援開始時間と出勤時間が同時刻の職員もいるため、細かな情報まで引き継ぐことができていない事もある	・毎年度、どの時間に振り返りを行うか見直し、共通理解のもと次年度をスタートさせている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	7		・必ず振り返り、担当職員が見ていなかった場面でも子どもの状況が分かるようにしている。 ・振り返りをする事で支援の見直しができる ・退勤時間が早い職員とは振り返りをする事が出来ない日もあるが、特記は必ず共有するようにしている。 ・行事の打ち合わせや研修などがある時は丁寧な振り返りができない日もある。	同上
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	7		・支援後に必ず記録ノートに記入し、1週間まとめたものを保護者に共有している。担当職員以外にもその他担任や応援の職員も記録を記入し、複数の目で記録を書いている。(毎日通園) ・支援中に集団・個別の様子、社会性の面など客観的に記録し、療育後保護者に共有している。(並行通園)	・支援記録を徹底しており、支援の検証、改善につながることは明白だが、記録の取り方、残し方の検討もしていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	7		・基本的に6ヶ月ごとに必ずモニタリングを実施し支援計画の見直しをしているが、子どもの状況に応じて時期を早めて行う場合もある	
21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	7		・児童発達支援管理責任者と一緒に子どもの担当職員も参加することがある。		
22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	7		・支援の導入前、導入後も情報共有しながら連携している(健康づくり、福祉課、子育て、園等)		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	7		・現在は医療ケアの必要な子どもの在籍はないが、地域保健、障害福祉など、子どもに関わる複数の関係機関と連携し支援している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	7		・心身障害や病気による留意が必要な児の場合は、状況に応じて主治医や協力医療機関と連絡体制が取れるようにしている。対応フローチャートを事前に作成し、関係機関と共有している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		・移行前に園や学校の見学を実施するなど、スムーズな移行となるよう努めている。	今後も移行前に必ず相談員、関係機関を含めスムーズな移行が進むようにしていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	7		・移行期には学校や関係機関と情報共有を行い、スムーズに移行できるよう支援している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	7		・年に3回定期的に地域の児童通園事業所が集まり情報共有している。県内児発センターとの情報共有や研修会参加、年1回中四国の職員研修会に参加し、助言等を受けている。	・現在、市内の通所事業所を招集しての情報共有だが、今後ケース会議や課題等についても話し合いを進めていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	1	6	・並行通園を利用している児は障がいのない子どもとも日々活動しているが、センター独自での取り組みとして園との交流会などは実施できていない。	・家族支援として開催しているわくわく広場にはきょうだい児も参加し一緒に活動している。地域園等との交流に関しては、地域のイベントへの参加や交流の実施など、保護者の意向も確認しながら地域園の協力依頼を図る。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	6	1	・管理者、児発管が参加している。 ・参加しているが、その情報を他スタッフに周知できていない事がある	・自立支援協議会こども部会に参画しており、他の通所事業所と情報交換した際にあった地域の課題を協議会の場で提議している。今後は職員にも協議会の内容を職員会議等で共有していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	7		・連絡帳のやりとりや登降園時に顔を合わせて状況を伝え合える体制にしている。その他にも、電話連絡やママ連メールなどを活用し共通理解できるよう努めている。	・保護者の困りや気になる事について随時相談を受けており、今後も課題の共通理解に努めていく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	7		・年に数回、保護者学習会を開催している。 ・親子療育を通して保護者が子どもの特性を理解した関わり方や対応を考える機会をつくっている。	・今後ペアレントプログラムが実施できる職員の育成を図る。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	7		・契約時に必ず説明し、同意を得ている。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	7		・支援の導入前に丁寧に説明を行い、同意を得ている。		
34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	7		・年間で定めている個人懇談の他に、連絡帳や送迎時での日々のやりとり等を通じ、管理者・児発管・担当者間で共有した上で必要な助言と支援が行えるようにしている。	・今後も保護者の相談に対し支援を行っていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	35	7		・保護者会は設けていないが、保護者カフェでの場所の確保、先輩保護者とのカフェの企画など、保護者同士での連携や情報共有ができるよう支援している。	・今後も保護者の交流の場であるカフェに施設を提供していく。
	36	7		・利用開始時、保護者に相談体制のあることを伝えられている。相談・申し入れの対応は、連絡帳や登降園時でのやりとりの他に、事業所内で対面で実施、家庭訪問して実施、電話連絡での実施など状況に応じて適切に対応できるようにしている。	・今後も必要であり、対応できる職員を増やしていきたい。
	37	7		・毎月月案だよりを配布し、情報発信している。 ・年に数回にじいるレター(広報誌)も発行した。 ・法人内で事業所ブログをアップしている。 ・年度後半からはリタリコでも情報を発信できるようになった。	・毎月発行しているが、さらに内容や状況がわかりやすいものを検討する。
	38	7		・法人の個人情報取り扱い規程により対応実施している	
	39	7		・利用児とは言葉での説明だけではなく視覚的な提示・表出ができるように多数の絵カードを揃えている。	・聴覚に障がいのある保護者等との情報共有の際にはICT機器(タブレット等)を使った情報伝達ツールを用いていく必要がある。
	40		7	・利用児とその家族を対象とした行事はあるが、地域住民を招待できる行事は実施できていない。 ・行事ではないが、地域の民生委員からの要望で事業所の見学会を実施した。 ・センター機能として、地域の児童通所事業所との情報共有の機会を設けている。 ・保護者同士が事業所に集まり、カフェの場として利用できるようにしている。	・障害のある児童を預かっている本所では、地域の要望を踏まえ本所の状況に応じ見学会を受けている。
非常時等の対応	41	7		・各種マニュアルは策定・整備されており、事務所入り口に保管・閲覧できる事を広報誌で周知している。不審者対応訓練、衛生管理研修など発生を想定し実施している。	
	42	7		・火災避難訓練は毎月実施している。救急法は瀬戸内市消防と連携し講習を受けている。Jアラートでの訓練も実施している。	
	43	7		・支援導入前の初回見学时、アセスメント時にこどもの支援に必要な情報を聞き取りし、支援開始前に対応方法など検討・共有・周知できるようにしている。	
	44	7		・利用前に必ず健康診断書を提出してもらっている。食物アレルギーのある子どもにはアレルギーの評価表を併せて提出。除去食や代替え食の確認と、アレルギー症状が発生した場合のフローチャートを作成し、保護者と共有した上で対応している。	
	45	7		・過去に実際に起きたヒヤリハットを参考に、時期的に多くなる事象を職員会議で共有している。	・今後、ヒヤリハットの分析を行い、事前に防ぐことが可能なことは共有し、事前策を講じる。
	46	7		・法人内、事業所内にて年1回以上研修を実施している。 ・他で虐待の事例があればその都度共有し起こらない様意識している。 ・にこりほととの取り組みをしている。	
	47	7		・身体拘束について支援計画に記載していない。 ・これまで必要な方はいなかったが、法人内の規定を参考に児童ではどのような場合必要かを話し合うことがある。	・職員会議で、児童ではどんな場合、必要となるかを話し合う。